

禁じられた恋の悲劇
それを読み解くのは
能
あるいは(記憶の劇場)

老人(クローデルの霊)/聖ヤコブ 観世榮夫
二重の影/ドニャ・プルエーズ 梅若晋矢
三番叟を舞う若者/ドン・ロドリッグ 野村萬斎

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.13 空中庭園第6回公演

ポール・クローデルの詩による創作能

内濠十二景 あるいは《二重の影》

作・構成・演出=渡邊守章/節付・作舞=観世榮夫

地謡 河村和重、河村博重、越賀隆之、河村和晃
笛 一噌隆之
小鼓 大倉源次郎
大鼓 亀井広忠
太鼓 三島 卓
後見 柴田 稔、鷹尾章弘

京都芸術劇場 春秋座

2004年3月1日(月)19:00開演

※1日14:00より、渡邊守章氏と京都造形芸術大学学長 芳賀徹氏との対談
『ポール・クローデルー日本を詠む詩人大使』を開催します。

●スタッフ 作・構成・演出=渡邊守章/節付・作舞=観世榮夫/照明=服部 基/演出助手=前川錬一/舞台監督=本城義明/制作=渡邊清子、荻原達子、脇 るみ子
●主催 京都造形芸術大学舞台芸術研究センター/空中庭園/ポール・クローデル『内濠十二景』による創作能 上演委員会

●後援 駐日フランス大使館/日仏経済交流会(パリ・クラブ)/自由が丘日仏協会

●助成 能芸術文化振興基金/M.企業メセナ協議会認定事業

●料金(全席指定): 一般=前売4,500円/当日5,000円 学生&ユース(25歳以下)=前売2,500円/当日3,000円
※学生&ユース券は学生証か年齢のわかるものをご購入時にご提示下さい。※未就学児童のご入場はお断りします。
●チケット取扱 舞台芸術研究センター tel 075-791-8240/チケットぴあ tel 0570-02-9999/tel 0570-02-9966(Pコード予約351-039)

●お問い合わせ
京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター tel 075-791-8240/fax 075-791-9438/e-mail:info@k-pac.org/http://www.k-pac.org



渡邊守章



観世榮夫



梅若晋矢



野村萬斎

京都造形芸術大学舞台芸術研究センター上演実験シリーズ vol.13 空中庭園第6回公演

ポール・クロードルの詩による創作能

内濠十二景 あるいは《二重の影》

作・構成・演出＝渡邊守章／節付・作舞＝観世榮夫

出演 観世榮夫 地謡 河村和重、河村博重、
梅若晋矢 越賀隆之、河村和晃
野村萬斎 笛 一噌隆之
小鼓 大倉源次郎
大鼓 亀井広忠
太鼓 三島 卓
後見 柴田 稔、鷹尾章弘

●料金(全席指定): 一般＝前売4,500円／当日5,000円
学生 & ユース(25歳以下)＝前売2,500円／当日3,000円
※学生 & ユース券は学生証か年齢のわかるものをご購入時にご提示下さい。
※未就学児童のご入場はお断りします。

●チケット取扱: 舞台芸術研究センター tel 075-791-8240
チケットぴあ tel 0570-02-9999
tel 0570-02-9966(Pコード予約351-039)

●お問い合わせ: 京都造形芸術大学 舞台芸術研究センター
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
tel 075-791-8240 / fax 075-791-9438 / e-mail: info@k-pac.org
http://www.k-pac.org



●アクセス
*JR「京都」駅／京阪「三条」駅／阪急「河原町」駅から
(京都駅からは約50分)
→京都市バス5番「岩倉」行き乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
*市営地下鉄「丸太町」／「北大路」駅から(約15分)
→京都市バス204循環に乗車、「上終町・京都造形芸大前」下車
*京阪電鉄「出町柳」駅から
→観山電鉄に乗り換え、「茶山」駅下車徒歩10分
→タクシーで10分
*駐車場はございません。車・バイクでの来場はご遠慮ください。

〈禁じられた恋〉の悲劇
それを読み解くのは 能
あるいは〈記憶の劇場〉

「二重の影」とは、クロードルの大作戯曲『繻子の靴』で、神の掟のために地上では結ばれない二人の恋人、ロドリッグとプルエーズの恋の執念が、一塊の黒い塊となって現れたものだ。

「二重の影」の場面は、大正十一年に書かれているが、同時期に書かれた『内濠十二景』という日本の美学を取り込んだ詩篇と重ねて、皇居内濠の石垣に、若者の三番叟の舞が、「二重の影」を出現させ、ロドリッグとプルエーズの、地上では叶えられなかった恋を再現させる。地上世界では引き裂かれた恋人を、天上界での和解へと繋ぐのは、オリオン星座の姿を取った聖ヤコブである。

本邦初演
二〇〇一年に、ブラング城館の国際クロードル会議、パリ日本文化会館等で世界初演を果たしたが、日本における公演は、今回の京都芸術劇場春秋座と世田谷パブリックシアターが最初である。

経緯
二〇〇一年に、国際クロードル会議の委嘱で作られたこの創作能は、仏文学者で演出家の渡邊守章と、観世流シテ方の長老で京都造形芸術大学教授である観世榮夫とのコラボレーションの成果である。二人の出会いは、一九五七年の第一回能・狂言のバリ公演に遡るが、創作舞台は、一九七〇年代に故観世寿夫を中心に作った「冥の会」における古代悲劇の上演以来の関係である。一九八〇年代後半には、「パルコ能ジャンクション」として、野村萬斎(当時の武司)と共に作った『葵上』『当麻』が画期的であった。渡邊と萬斎の協力は、一九九〇年、東京グローブ座における『ハムレット』以来である。

コンセプト
大正年間に大使として東京に駐在したポール・クロードル(二八六八―一九五五)は、二十世紀フランスの最大の劇詩人として、現在も新しい演出による上演が盛んに行われている。この創作能は、クロードルが愛した能の作劇術と技法と美学によって、詩人の日本時代のテクストを舞台化しようとするものであり、いわば異文化の相互照射の遊戯である。